

遠野地方森林組合直営班現地研修会の開催

1 はじめに

遠野地方森林組合では、素材生産を行う直営班を平成26年度から組織化し、高性能林業機械を補助事業で導入し、間伐作業を中心に素材生産を進めてきました。

直営作業班では、緑の雇用事業を活用しながら3年間で4名の職員を新規雇用しており、経験の浅い職員のスキルアップのため「森林経営実践力アップ事業」により研修したのでその取組みについて報告します。

2 研修会の目的

今回の研修では、主に平成29年度に導入した高性能林業機械(ハーベスタ、フェラーバンチャ)のオペレーターをしている新人職員に対して、間伐作業の効率化と操作技術の向上を図るため、専門家の指導を受けながら現地研修会を実施しました。

また、森林作業道作設におけるルート選定方法についても現地で研修しました。



間伐の選木、搬出検討

3 研修の内容と成果

(1) 高性能林業機械を活用した間伐作業研

修においては、現地の傾斜が急勾配であることから、伐倒方向やグラップルの補助作業による木寄せ・玉切り作業の効率化や、作業道支障木と周辺間伐木を先行伐採して邪魔にならないよう搬出するための効率的な人員配置等について、現場の進み具合を見ながら作業員自ら工程を考えることの重要性を確認できました

(2) 森林作業道作設のルートについては、当初、既設作業道の一部を活用したルートを予定していましたが、専門家の指導により現地調査をした結果、途中で急勾配となるため、適切な取り付け箇所が重要であることなどについて学びました。



作業道ルート検討

4 おわりに

研修した作業員からは、是非講師の現場も視察したいと技術の習得に前向きな発言があることから、今後とも安全性、生産性の向上のため引き続き研修を実施し、日々の間伐作業でのコスト分析を行いながら更なる技術の向上と工程改善の取組みなどについて支援することとしております。